

専門研修プログラム名	社会医療法人清和会西川病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	社会医療法人清和会西川病院	
プログラム統括責任者	松本貴久	

専門研修プログラムの概要	基幹施設は地域の中核精神病院で、急性期から慢性期、重症例から幅広いメンタルヘルスの問題や依存症、思春期から老年期までほぼあらゆる精神疾患を扱っている。また同一法人内で様々な福祉施設を有し、基幹相談支援センターにも指定されて地域の様々な機関との強い連携体制がある。基幹施設での研修で、幅広い症例を経験して精神科専門医としての基礎的素養を身に付け、多職種チームによる地域精神医療のダイナミクスを学ぶことができる。連携施設の大学病院では、コンサルテーションリエゾンやmECTなどの研修を補完できる。また同一法人内クリニックで外来診療、訪問診療をより深める研修も可能である。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹施設での研修では外来初診の予診をとり指導医による診察に陪席することで診断と初期治療を学ぶ。半年後には指導医の指導の下、独立して外来診療ができることを目指す。急性期患者の主治医として入院患者の診療を指導医の指導のもと多職種チームで行う。慢性期の入院患者も担当し、難治症例の治療や長期入院患者の地域移行支援を学ぶ。SST等の集団治療プログラムに参加して、プログラムのリーダーを体験することも可能。基幹施設で2年間研修したのちに1年間、協力研修施設である島根大学医学部附属病院（2年目に振り替え可能）またはこころクリニックせいわで研修して基幹施設で研修の補完を行う。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	各種精神疾患の概念や病態の理解、精神療法、薬物療法、社会心理療法を適切に組み合わせた治療を学ぶ。症例は幅広く、児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症の症例を学ぶことも可能。精神保健福祉法のもとで医療をおこなうことの理解を深め精神保健指定医の取得もめざす。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	毎週の医局会での症例カンファレンス、多職種による新入院カンファレンス・病棟カンファレンス、法人内全部署参加の合同カンファレンスなど様々なカンファレンスを通じて、患者理解と多職種協働を学ぶ。
	学問的姿勢	医局会では輪番制で英文論文抄読会を行っている。学会参加や学会発表、論文作成を支援する。院内学術誌あり。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	学会等の研修会、院内研修会に参加して医療安全、感染管理、医療倫理を学ぶ。精神保健福祉法を順守し、患者行動制限の最小化を多職種チームで取り組む。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目は基幹施設で精神科診療の基礎を学ぶ（上記記載参照）2年目は本人希望で希望する領域（依存症、認知症、就労支援、心理教育、認知リハ等）をより深めることも可能。3年目は連携施設（2年目に振り替え可能）で基幹施設での研修を補完する。
	研修施設群と研修プログラム	島根大学附属病院精神科神経科、社会医療法人清和会こころクリニックせいわ
	地域医療について	保健所（嘱託医活動有り）、市町村、同一法人内事業所のほか様々な地域機関との連携を通じて地域精神医療を理解・実践できる。近隣総合病院へのリエゾン活動にも同伴できる。

専門研修の評価	日本精神神経学会の研修実践管理システムを用いて、指導医や多職種による評価・フィードバックを行い、1年ごとに統括責任者が確認して次年度の研修計画に反映する。	
修了判定	指導医の総合評価および研修実践管理システムでの評価状況、漏れがないことを確認して、管理委員会で終了を判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	個々の研修医の研修状況、健康状態、研修への希望等の確認。各施設の状況の確認。研修プログラムの作成と再評価・改善。
	専攻医の就業環境	基幹施設では週5日勤務、月2-4回日当直（免除のケース有）
	専門研修プログラムの改善	管理委員会で評価、改善を適宜検討して実施。
	専攻医の採用と修了	基幹施設で採用面接を行い採用を決定し、管理委員会の了承を得る。終了の判定は統括責任者が中心に行い、管理委員会の了承を得る。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	統括責任者を通じて管理委員会に申請して休止・中断することができる。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本精神神経学会等による訪問調査を受け入れる義務を負い、調査に協力する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	松本貴久（病院長）、荒木正人（理事）、荒木洋一郎（理事）、内田有彦（こころクリニックせいわ所長）、稲垣正俊（島根大学医学附属病院精神科神経科・診療科長）、大拙孝治（島根大学医学附属病院精神科神経科・外来医長）、長濱道治（島根大学医学附属病院精神科神経科・病棟医長）、山下智子（島根大学医学附属病院精神科神経科）	
Subspecialty領域との連続性	精神科専門医取得後、連続した研修が可能になるように配慮します。	